

カラマツ・トドマツ原木の地域別供給可能量を50年先まで予測しました

背景



地域で「切ることのできる」立木の体積がわからない

- ・地域ごとに木の成長量・供給可能量は異なる
- ・国有林・道有林・民有林で伐採計画が別々



地域で「切ったら出てくる」原木の太さと量がわからない

- ・木の成長量や欠点のある木の発生割合は地域ごとに異なる
- ある太さの原木がどれだけ出るかわからない



長期を見通した計画的な経営が困難

成果の活用状況

- ・北海道による100年先を見据えた森林づくりに関する施策・計画に活用
(北海道森林づくり基本計画(2012)の数値目標のベース資料となり、北海道森林資源動向予測チーム(北海道庁主催：H26～)の予測値としてHPに公表されています。)

成果

カラマツの推定された伐採量*

- 2万m³程度
- 4万m³程度
- 15万m³程度
- 30万m³程度
- 60万m³程度

*現在(H23)と同じ程度の植栽が維持された場合の試算です



地域別・樹種別に50年先まで持続可能な供給可能量を予測

カラマツの年間供給可能量は全道で**210万m³(*)**でした

この伐採量で、資源は50年先まで維持されます

同様にトドマツは230万m³でした

たとえば十勝では**60万m³/年**(H33予測)



そのうち直径16~20cmの原木は**25万m³**



管柱(コアドライ®乾燥)